

都会の華やかな世界から一転、自然との共生へ

なだらかな山並みに囲まれたのどかな山里、安来市奥田原地区に品野さんが移住してきたのは2019年11月のこと。小道を登った先に建つ築300年の古民家で「arc tara(アークターラ)」を立ち上げ、この土地の豊かな自然が育む薬草やハーブ、農作物を使い、お茶をはじめとした様々な商品の加工や販売をしています。

品野さんの出身は千葉県。高校卒業後は語学留学とサーフィンを目的にハワイへと渡り、帰国後は東京を拠点に音楽スティージやアパレル施設の装飾、テレビ局関係の美術の仕事に靴の会社経営と、非常に幅広く活動していました。しかしあ

まりに多忙な生活から体調を崩してしまいます。「華やかな世界でしたが、食生活の乱れと睡眠不足でうつ状態になってしまった」という品野さん。仕事を辞め、生活を変えるため富士山に通う中で、後の師匠となる若杉友子先生に出会います。

東京から富士山、そして京都へと移住

若杉先生は野草の力に着目した様々な活動を行うその道の大家で、関連した著書も多数。「日本古来の暮らしや伝統療法、野草を使った料理を伝えるため、全国で活動しているスパーおばあちゃんなんです！」と笑顔で話す品野さん、その考えや生き方に感銘を受け、先生の元で暮らすために富士山へと移住。先生の講演会や料理

教室のお手伝いなど、活動を共にしていただいています。4年後、先生はもう一つの活動拠点である京都へ。それに伴い品野さんも京都の綾部市へと住まいを移しました。

京都では農業と先生の活動のお手伝い、そして品野さん単独でもキャンピングカーで全国を回り、各地で野草の料理教室等を開いていました。「先生に出会って、自分に必要なものは足元にあると気づいたんです。今は便利な時代だけど、失ったものも多い。昔の暮らしや知恵から学ぶことはたくさんあります」と話します。

しかし京都での生活が12年ほど経ったころ、住居周辺の獣害がひどくなり、農業ができない状態に。「自分が田舎暮らしをする一番の目的である農業ができなくなっ

は、そこにいる意味がない」。そう思った品野さんは料理教室で全国を回りながら、次なる移住先を探しました。

日本の北から南まで、選んだ移住先は奥田原の地

山や川、土を見て移住先を探したという品野さん。「農業をやって分かったんですが、土と身体は一緒なんです。土が良いと、いい農作物ができる。いい農作物を食べると身体が良くなる。身土不二ですね」。そして選んだ先は奥田原。築300年の家を新居に、老朽化の進んでいた内装を京都時代からのパートナーが大胆にリフォーム、外観からは想像がでないほど素敵な空間に生まれ変わりました。

現在は野草や薬草の加工販売のほか、オンラインで料理教室などの講座も定期的に開催。今後は薬草や酵素を使ったデトックスサロンや、野草を使ったランチの提供なども始める予定とのこと。また近くには「山佐ダムキャンプ場」があり、施設の一部を週末限定のカフェ&サロンにするため準備中です。

「今はオンラインの時代。講座もお店もネットでできるので、やりたいことがあればどこを拠点にしても大丈夫。このままずっとこの地にいたいと思っています」。奥田原での生活を思い切り満喫しながら、品野さんの活動はまだまだ広がっています。

Q 品野さんが思う安来市のいいところを教えてください。

A 自然の良さですが、人がすごく優しい。この土地や家を選ぶ時も、いろんなご縁でたくさんの方に協力してもらいました。それも移住の決め手になりましたね。

Q 今のような生活に切り替えて変わったことは？

A 気持ちが明るくなりました。体調を崩した時期は落ち込むことが多くてそれが怖かったけど、そういうのが一切なくなりました。体を良くすると肌もきれいになるし、シミや白髪もなくなるんですよ。

Q 最近ハマっていることは？

A カヤックを買いました！それを軽トラに積んで、海に行って、釣りをするんです。楽しいですよ(笑)

arc tara 品野三木さん

山と川と土、全国を見て回ってここに決めた！

かつては東京で音楽業界や装飾の仕事などを手掛け、アクティブに活動していた品野さん。安来市に1ターンのきっかりかかげ、そこに至るまでの経緯を伺いました。



①自宅前で、品野さんとパートナーの棟本剛さん。②築300年の古民家とは思えないほど、おしゃれで居心地の良い室内。リフォームは全て棟本さんが単独で行ったという。③野草や薬草を加工した商品はネットを中心に販売。お茶以外にも様々な商品があり、全国から注文が来るという。

IZUMO YAKUSO LaB arc tara 島根県安来市広瀬町奥田原 522
090-6113-4309
https://arctara.thebase.in
arctara522